厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

「WHO 統合国際診断面接第５版(CIDI 5.0)日本語版の開発と信頼性・妥当性の検証および活用のための体制整備に資する研究（3）」

分担研究者 小笠原一能（名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター　准教授）

研究要旨
ICD-10がICD-11に改訂されたことに伴い作成されたWHO統合国際診断面接第５版(CIDI 5.0)の日本語版を作成し、その信頼性・妥当性の検証および活用のための体制整備を図り、もって日本の精神科医療の診断および精神医学的疫学調査の能力向上に資することを目指す。

A.研究目的

本研究では、CIDI 5.0の日本語版（面接者使用版、自己回答版）を開発し、その信頼性と妥当性を少数の精神障害群【研究1】と地域住民群【研究2】との比較により確認し、CIDI 5.0により収集された情報からDSM-5、ICD-11に基づく精神障害を同定する診断アルゴリズムを開発する。特にCIDI5.0をサーバーからインターネット経由で提供することで、地域の精神保健疫学調査や臨床研究を行う研究者・臨床家が簡便にCIDI5.0を利用できるシステムを構築する。本学ではこの内、研究1の精神障害群における妥当性検討に参加する。

B.研究方法

英語のCIDI 5.0を日本語に翻訳し、それを用いた研修会を実施した後、研修会に参加した面接員によって上記8疾患群についてCIDI 5.0日本語版を用いた面接を実施する。合わせて精神科医・臨床心理士等によって作成されたDSMチェックリストおよびICD診断も記録し、CIDI 5.0による診断の精度を確認する。基本的には面接員と研究対象者の1対1の面接であるが、評価者間信頼性を検討するために複数の面接員が調査に陪席することがある。また、2度目の調査への協力が得られる一部の対象者にはCIDI 5.0を2週間から1ヶ月後に再面接し、再試験信頼性を評価する。面接を通じた情報はPCを通じたオンラインシステムによって研究代表機関に集約される。

C.研究結果

COVID-19の影響で準備に時間がかかってしまった面はあるが、現在研究対象者への面接を進めている。来年度以降に面接の結果を集約し、解析される予定。

D.考察

ICD-11という国際的な操作的診断基準に沿った診断アルゴリズムが日本語版で開発されることは、今後の日本の精神科医療の診断および精神医学的疫学調査の能力向上に資すると期待できる。

E.結論

想定の仕様で研究を実施できており、来年度以降も本研究を進めていく意義は大きい。

F．健康危険情報

研究対象者の心的外傷の活性化に注意が必要である。現在のところ、格別の問題は生じていない。

G.研究発表

1.論文発表
来年度以降行う予定である。

2.学会発表
来年度以降行う予定である。

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1.特許取得
来年度以降検討する。

2実用新案登録
来年度以降検討する。

3.その他
来年度以降検討する。